

# ラテンアメリカ 旅

ブラジルでの経験

## 統計資料収集の

相原好江



機会があり二度ほどラテンアメリカ諸国へ統計資料収集に出かけた。一度目はラテンアメリカ三大国のメキシコ、ブラジルそしてアルゼンチン。1986年の秋のことである。二度目は今年の夏、南米の太平洋側3カ国のエクアドル、ペルーそしてチリであった。いずれの国もラテンアメリカ諸国のなかでは統計資料の出版量は豊富である。そこでここでは、時期が遅すぎの感はあるが、かといって急激なる変革があらうはずがないとの確信から、一度目の旅、ブラジルでの統計資料収集の苦労話、特に郵便局でのそれを披露したい。

### 資料収集—男と女

その前に触れておきたいのが、統計資料収集作業は誰がやるのかということ。つまり男がやるものかそれとも女がやるものかということである。なぜならどう見方を変えても統計資料と名のつくものは一般的に薄手ではない。上質紙でその厚さ5センチなんていう日本の貿易月表もある。一昔

前の統計書は厚くても紙質が悪く、図体の割にはまだその重さはゆるせたものであるが、上述の月表などになると2冊かかえたら腕がしびれる。そこでつい私はこのような仕事は男のやるものである、などと叫びたくもなるのであるが、そこは男女同一労働同一賃金なのである。

しかしである。統計というイメージの持つウェイトはどんなもんだらう。どうも世の中の目には統計=男という方程式が映っているようで、とりわけラテンアメリカ諸国ではメキシコの社会慣習の「マチスモ」に代表されるように、この方程式はしっかり方程式なのである。ですから日本から遠路はるばる統計資料——そうです、重いものです、たくさん数字のならんだ難解書のようなものです——それを女性が集めにきたとあっては血の気の多い男性陣はだまってはいません。

### リオ—ブラジル銀行大騒動

この男性陣の反応の最たるものは、私にとってラテンアメリカ初めての地ブラジルはリオデジャネイロのブラジル銀行であった。ここでは、女性たる私の資料請求リストを手に、担当者一同、部長、課長、秘書と一般行員、そして倉庫番まで繰り出しての大資料探し。そのテンヤワンヤの大騒動に気もそぞろ、一刻も早く彼らが資料を探し当ててくれることを念じつつ、その間私は、部長(ポルトガル語のみ)、秘書兼通訳(ポルトガル語と英語)、そして私(ポルトガル語不十分)のトライアングルでの懇談、一件落着までに大汗となったのです。

そうこうするうちに部長の机の上には分厚い資料が山をなしていく。その山なす資料の前でもう

ただただ気のとうくなる思いにムチを打ち、用意した二つの布袋にこれらをめいっぱい押込み、皆におくられヨタヨタしながらタクシーに乗り込み、ホテルを目差した時は、体中から力という力が抜け出してぐったり。

こんなことを誰がする……。

一日中こんなことの繰返し。しかもこちらの予定した訪問日程どうりにいかないのが常で、先方の都合により一日に3、4機関が集中した時は、まさにホテルと訪問機関をタクシーでピストン輸送となる。強き者、汝の名はやはり女なのである。



#### 閑話休題—はじめが肝心

ところで私の統計資料収集のマニュアルによると、次の諸点がホテルをリザーブするに当たり最重要項目となっている。

- (1) 郵便局が歩いて行ける距離にあるか。
- (2) 事務用品(包装紙、ガムテープ、麻ひも等)店が近くにあるか。
- (3) 各訪問機関への接近に便利であるか。

この3点が満たされている範囲に、ホテルがとれるか否かによって仕事の仕上りがちがってくる。しかし、よほど現地の事情に詳しくないとこれはうまくいかない。女性1人で宿泊するホテルとなればドル札に羽根の生えるほど高級であったり、片や危険を避けた郊外であったりが常である。また上記3点が完全に満たされたと思ったら、昼夜騒々しいケバケバした中心街であったりする。こ



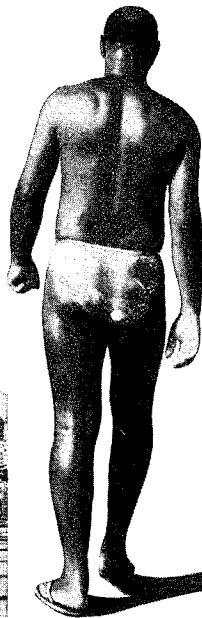
のためこれらの視察は現地に到着後すぐに開始しなければならない。

まず、ホテルと郵便局との距離、郵便局の開局時間と取扱い郵便物の種類の調査(国により小包は午前中のみ)、そしてこの結果と日程とをにらめっこして、どの時点で各訪問機関からかき集めてきた資料を発送するかを計画する。

#### 郷に入れば—しばしの憩

リオでは、人を介してリザーブしたホテルが、コパカバーナ海岸に面していて、一瞬、腰を抜かしそうになった。観光ならいざしらず、統計資料収集にコパカバーナは不似合である。それに訪問予定の各機関に何と遠いことか。しかし、転んでもただでは起きられぬ私のこと、観光地だろうと何だろうと……。

コパカバーナのあの朝靄にけぶり延々と続く海岸の道を、早朝(海岸と大通りに面した私の部屋は、朝5時ともなれば、もう自動車の音で寝てもいられない)、パンツ一枚(!!!)、そう、彼ら(多分、長期滞在者か、リオの金持ち連中でしょう)は、このスタイルで、朝食前の小一時間を、黙々と速足で歩いて体を鍛えており、赤銅色に光るその体は、贅沢と札



朝のコパカバーナ海岸

束の塊のようであった。そんな中に、私も混って、しかも、身づくろいはしっかりして(この辺は日本人)、一汗も二汗も流した。そして、その後の、フルーツいっぱいのホテルの朝食の美味であったとか。コパカバーナの朝は、使い方によって、アクアマリンにも泡にもなる。

#### それでも仕事—観光地でのヤボ

ところで、コパカバーナのホテルのカウンターで、いまだ荷物を手にしたままでの、私の最初のことは「郵便局はどこ？」であった。マスターは思ったにちがいない。「コパカバーナまで来て何を考えているのか、この日本人は」と。全くもってコパカバーナはレジャーワールドなのである。ともあれ幸いにも郵便局はホテルの裏側、二ブロック先という意外と近場にあり、朝一番、夕方どんじりとよく利用した。

この郵便局では封筒の中身である資料のページをめくるほどの厳しい検査があり、印刷物以外の書状を忍ばせるチャンスを逸した。そのうえ送料は担当者のミスにより、前日の2倍も引っかけられたりして、後に居並ぶブラジル人に気がねしいい抗議する場面もあった。これとてもたまたま運がよかったというだけで、初日から2倍料金で請求されてたらどんなもんだろう。料金表は郵便局の薄汚れた壁には張られてはいるものの、あ

くまでも国内用で国際料金表は、カウンターのなかの従業員用だけで、彼らが使っているのを確認のために見せてくれとは言えない。従業員に料金の再確認の請求はできるが、しかしこれもかなりけむたがられるのは事実だ。私個人の費用ならともかく公費なのでけむたがられてもやるしかない。われわれ日本人にとっては、送料がたいした額でないだけに後味がかなり悪い。しかし塵も積もれば、である。

#### 1日に5カ所も—そしてスコール

さて、資料送付で心臓を大変痛めつけられたのはブラジリアでのことである。3日間の日程で、朝、飛行機でリオを発ち、午後早い時間にブラジリアのホテルに着くやいなや、訪問機関をアレンジしたら、何と翌日に5件が纏まって入ってしまったのである。翌々日の朝の便でリオに帰着するスケジュールを考えると、資料収集のできるのはたったの1日。それに5機関も。

後で思えば、1日タクシーを借り切れればことなきといったあんばいであったのですが、この予算は自分持ち。かなりの金額であったので、いさかけちって、安くあげようと、各機関とホテルをタクシーで往ったり来たり、目まぐるしいことこのうえない。

そのうえ訪問機関先で収集できるだけの資料を

欲ばって手にいれるものだから、常備のずた袋は嵩張り重みで原形をとどめない。ホテルのドアボーイも、日本の女性が出たり入ったり、それも戻ってくるたびに大荷物を抱えており、そして、あつという間に、袋を空にしてまた飛び出していく、というパターンの繰返しに、ほどほどあきれ顔。

こうして集めた資料を、封筒に入れ、ホテルの裏側、原野の中に建つ郵便局に運び込む。といってもこの郵便局、ホテルの窓からはるかかなたに見える位置にある。閉局が6時と聞いており、その日のスケジュールをにらむと、なんとか閉局時間までに間に合うと踏んだのだが、突然のスコールである。ブラジリアのスコールは生やさしくはなかった。

#### どしゃぶりの雨の中を一獅子奮迅

最後の訪問機関の農林省をおえて、ほっとして省の玄関へ出て絶句。ものの30分も前、あれほど輝かしい太陽に送られて入ったこの建物を、出る

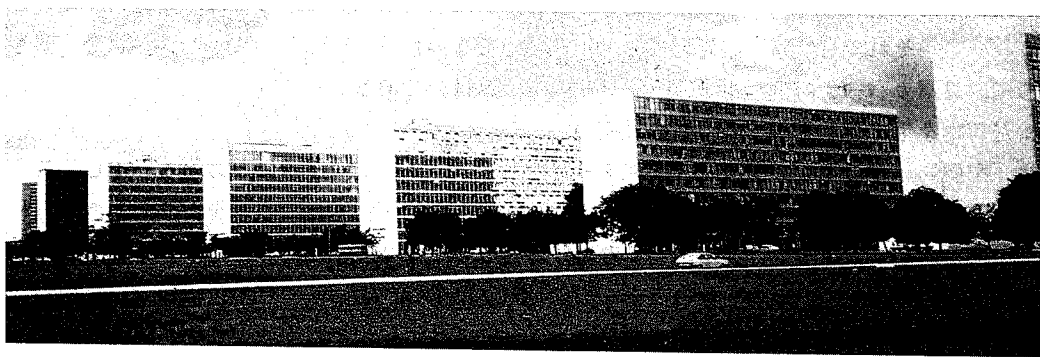
されるように入ってきた某役人先約のタクシーを譲って貰い、礼もほどほどに、すわホテルへ。

ようやくホテル帰りついたものの、郵便局の閉局時間にギリギリ。乱筆をも厭わず、資料受領リストを書き上げ、手あたり次第に資料を封筒に投込み、宛先を書くどころか封もせず、サイフと部屋の鍵をポケットに挟込んで両手いっぱい。先が見えないほどの封筒を抱えて、ホテルの前で「タークシー」。

#### 間一髪一髪の乱れも何のその

慌てて行き先を告げると猛烈な勢いで厭味をいわれた。目と鼻の先の郵便局まで行くのに、なんであんたはタクシーを使わなければいけないんだ、と言うわけなのである。いいんです、今は何も言わないで、ともかく、あの郵便局まで急いで、急いでくれればそれでいいんです。

郵便局の玄関、今まさに入口を締めようとしていた職員に「まって」と叫ぶなり、私は中へ転が



ブラジルの官庁街（まるで団地）

時は、地を揺るがすほどのどしゃぶりの雨……。あとは機転と度胸の一本勝負。なんとしてもこの窮地を抜け出さなければ、ホテルの部屋に山積となったあの資料を、今日中に発送しなければ……、と頭の中は大混乱。

これしかないと思出した妙案が省の受付の男性へのタクシー依頼。でもこんな時にはブラジリア中のタクシーは出払って、とてもとてもこっちまで回ってこないという。そこをなんとか強引にブッシュして待つこと暫し、どしゃぶりの雨に洗車

り込んだ。タクシー代金など全く忘れてのことであつた。運ちゃんの怒ったこと、思い切ってチップをはずんだ。10ドルだって、20ドルだって今の私にはおしくない。これだけの資料をもし郵便局で送れなかったら、一体私はどうなるのか、翌日の土曜日はリオへ、そして日曜日にはアルゼンチンはブエノスアイレスへ向けて旅を進めなければならない。これだけの資料を発送できずにブエノスまで持って出たら、手荷物が嵩張るだけでなく、飛行機の超過料金だけでも厩大そのもの。あれや



ブラジル中央銀行

これや考えるだけでも……。

背後に郵便局のあのガッガッガッというシャッターの降る音を耳にしたとき、私の全身から緊張感が一気に解け、一瞬眩暈とも虚脱ともいえないものを感じた。やった！何よりやった！

### 冷汗も消えて一非効率から学ぶ

ドアの中に入ってしまったら勝負はこちらのもの。しかしその後の郵便局の中での職員総出の作業は今でも冷汗ものだし忘れ去れることはできない。一人は宛名書き、一人は重量測定と切手の手配、そしていま一人は切手貼り（これがまた、小さい額の切手が山ほど出てきて、封筒の表と裏の隙間にびっちり貼り付けるという非常に効率の悪いシステム。もっと金額の大きい切手で、手早くなると、今のこの状況では口が裂けてもいえない。メキシコでもこんな場面に出くわしたが、その時はこちらに負目がなかったもので、もうすこしなんとかならないのと厭味の一つもでたもんだ）と、たくさんの職員の手が駆り出された。感謝感激である。

それにしてもこの作業何んと学ぶべきこと大であったことか。特に封筒への宛名書き、これこそ後の私の統計資料収集に大いに身になった。そこで昨年夏の収集作業では日本を立つ前に30、40袋とスーツケースに詰め込まれる封筒にはすべて、宛先と差出人の住所をコピーした紙が貼り付けられたのである。こうしておけばブラジルの郵便局でみんなの手を煩わせずにすんだのだが。まさかの時のことを予測できなかった自分を今でも

恥じている。

ともかくこうしてブラジリアの郵便局員の善意と好意により無事発送作業を終え、全ての重圧から解放された私は、その夜は食事をするのも忘れ、ドッと出てきた疲れを枕に、夜の7時から翌朝の7時まで、まるで死んだように眠り込んだのである。

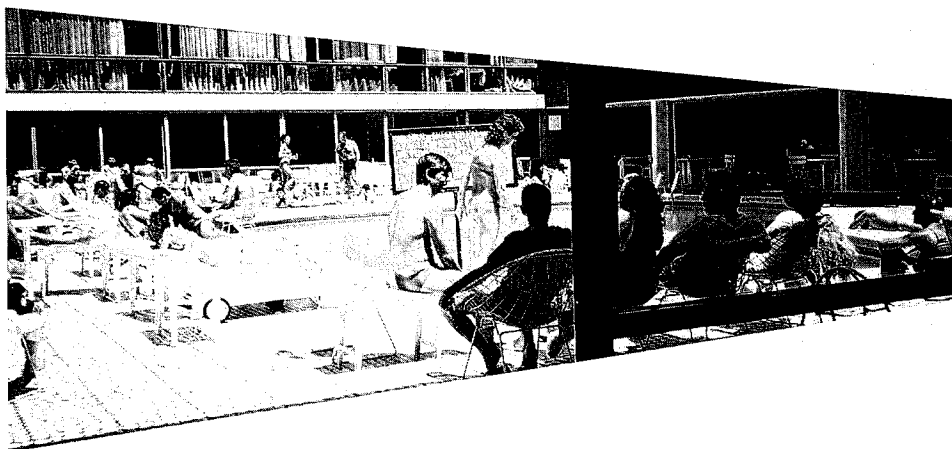
### プールサイドーささやかな幸福

楽あれば苦あり、この逆もまたしかり。ブラジリアの朝はことのほか清々しかった。それにしても今思えばブラジリアでのホテルは口惜しい。大枚はたいてプール付きの最高級のホテルに投宿し、水着まで用意して、ホテルの中庭で輝く太陽を浴びてひと泳ぎ、なんてイメージしていたのに、最後の最後まで、ずた袋を引き摺りまわして終わってしまったのである。でもプールの水面に反射するブラジリアの太陽をまぶしげにうけて、プールサイドでのんびり朝食を楽しめただけでもこの旅は幸せであった、と諦めよう。何ごとも高望みは失敗のもとである。

### 旅を終えて一出張の事務

ところで、話は前後するが、公費での支払には必ず領収書が必要なのだが、これがまた厄介な代物ときている。物を買えば大小を問わず領収書は当然くっついてくるものとの思い込みはこと切手にかぎっては通用しない。それはそれは大量の切手を買っても国によっては領収書は“non”なのである。どうしてなのと喉に出かかる言葉を出したらこちらの負け。黙って受入れるしかないのである。そこで手っ取り早いのは、必ず控をくれる書留にして、その料金を含めた郵便料金を書き込んでもらうのも一案。メキシコではこの手で入手したと記憶している。幸いにブラジルの郵便局では郵便料金の領収書らしきものは出してくれたが、これも交渉あるのみである。

さて、ブラジルの政府統計資料の出版機関であ



Hotel Nacional の  
プール（ブラジリア）

るリオのIBGE（ブラジル国家地理院）では建物の1階に販売部があり新刊書の展示も行なっている。また主題別の出版目録もあるので古い統計資料のチェックも可能である。ただし古い資料は別の場所に保管されているので入手に時間がかかる。資料はここで購入、持帰りが原則であるが、私の場合は購入資料が300冊近くとなり（特にセンサス結果等は報告書が各州ごとになっているので）、滞在日数が少ないことと、そして常時日本からの連絡網を持っていることから、交渉の末、送料は日本から送金するという約束を取付け、IBGE側に発送業務一切をお願いした。特例とのことであった。

今回の主な訪問先機関は下記のとおりである。

リオ・デ・ジャネイロ

(1) IBGE

ブラジルのほぼ全分野に関する統計書の作成・出版をしており、独自の図書館を有し、使用者の便に供している。『統計年鑑』（*Anuário Estatístico*）をはじめ、各種のセンサス報告書（国別、州別、

地域別）は調査実施後迅速に発行されている。

(2) ブラジル銀行

各種の貿易統計関係資料を出版、貿易統計年鑑の1983年版と84年版は大蔵省と共著。

(3) ブラジルコーヒー院

ブラジルの主要輸出品のコーヒー統計の作成・出版（*Anuário Estatístico*等）。

ブラジリア

(1) ブラジル中央銀行

金融、経済、株式、国際経済等の統計データの月報およびブラジル経済のレビュー（*Brasil Programa Econômico*、季刊）は利用度が高い。

(2) 政府官庁

大蔵省： 貿易、金融、税関係と、その出版物は多量。

鉱山エネルギー省： エネルギー需給および鉱物資源統計（*Balanço Energético Nacional*）等。

教育省： 教育関係統計一般。

農林省： 農業生産物統計等。

（あいはいら・よしえ／統計調査部）